

時事新報

露國の政略

もありて事あらんと雖も十九世紀の今日に於ては最良や心配なきのみあるず此等の諸州に住居する農民の元來純然たる露西亞人種にして奴隸解放令の施行以來農民は地主の壓制を免れ、彼の商人若くは有士者より成り立せる日耳曼人種を凌駕するの勢あれば内國も不和分裂の沙汰あるべしとは思はれざるあり此他露國政府の憂とす可なは例の露無黨事件にして近來の形狀を察するに政治上不平を懷くの徒獨り書生政談家に限らずるが如く貴族若くは軍人の社會にまで此氣風漫漬したるは實に恐るべきの次第あれ共是れ也世間よて吹聴するほどの騒ぎに非ず露國の内情と詳にする人は露國政府が露無黨の蔓延に惱むよりも日耳曼擴地利が社會主義の跋扈ゝ苦ひの却て甚しきを許さざるあし要とするに進富強の點に於ては北米合衆國の如く今日既に有力の位地に達したる國にして今後の運命亦實に旭日の天に冲る勢なりと評して可ならん又露國の特色とあすべく之に國內に黨派なきの一事をして彼の露無黨へ類に國政改革を企圖するに拘はらず英國流の議院政治と觀るとは土芥の如く其他一般の露國人民に至りては素より政黨あると云ふ分別もあく適々モスコーカセットの記者カートコフ氏の率ゐたるモスコーカセットの如き區別なりと雖も是れは國權と外に張るの主義より分れたる黨派員にも非ずカートコフ氏は又政黨員にも非ず「立憲」にして決して通常政黨の性質を帶るものに非ずカートコフ氏の未だ死せざるや露國の政略はアレキサンドル三世陛下と此新聞記者と兩人の方寸に在りとまで言はれるるば實に非常の勢力なれども是れ氏が政黨の首領たるを以て然りしひ非ず蓋しモスコーカセット新聞は政黨を知らずカートコフ氏は又政黨員にも非ず「立憲」の新聞紙は皆政黨の奴隸なきとも露國の新聞記者にして其制度なきは即ち露國強力の原因なりと言ふ我輩は此言の中らずと壁とも遠からざるを信するなり

事にて昨今同來せる土藏にて、以て地上地に入れ置きて寒防ぐ趣向なく、  
●屠殺牛羊る八月中屠殺  
豚五十八頭、洋種牝牛五十九頭、洋種牡牛五十八頭、  
市場會社の尾盛社の芝浦、  
、牡牛四百七  
八十七頭、兩  
すれば四百七  
盛んに賣らんと云ふ  
○牛市場丘日間牛市場を  
八東郡(牡)頭數は昨十九  
外に不賣却頗る活潑あり十五圓下等十  
ひり夫と其頭  
産地